

○資料2 王寺町の人口動態から見た福祉施策の方向性

【町長】

資料2については、時間の関係上、説明を飛ばすところもありますが、1ページを見ていただきますと、先ほどの説明でも少し述べましたが、増田寛也元総務大臣が中心となって進められています日本創成会議において、子どもを産む世代の主となる20歳から39歳の年齢である若年女性の動き、当然、各市町村で状況が違っているわけですが、転入される、転出されるなどの動向をベースとして、将来の人口を推計されました。日本創成会議では、2040年、今から約25年後ですが、20代から30代の若年女性が50%以上減少する市町村は、消滅する可能性があるとされています。そのような団体は全国で896団体あり、全国で約1800近くの団体の半分が消滅する可能性があると言われています。では、王寺町はどうか。若年女性の減少率は49%で、消滅可能性都市の896分の1には含まれていませんが、その次にくる状況であることがお分かりいただけると思います。これは、私が言っていることではありません。

次に、王寺町の少子化ですけれども、合計特殊出生率、難しい言葉ですが、要するに1人の女性の方が一生の間に産む子どもの数に相当するものですが、王寺町の場合は、過去5年平均で1.26、要するに一組の夫婦から生まれてくる子どもが1.26人ということです。奈良県では1.29、これも全国レベルでいうと下から3番目ぐらいに低いです。全国が1.38ですので、王寺町は、全国より0.12低いということになります。全国より低い数値の奈良県の中でもより低いことになります。それから、過去20年間の中学生以下の増減率を見てみますと、王寺町の幼稚園、小学校、中学校の児童・生徒数は、20年間で35.1%減、約3分の1減っています。全国を見てみますと23.9%。全国と比べれば、王寺町は10%以上も減少率が高い。これは、宅地開発で急激に子どもが増えるなど波があり、その子ども達もいずれは大人になっていきますので、決して、王寺町に責任があるというわけではありません。

それから、王寺町の高齢化ですが、現在、王寺町の65歳以上の人口は5,896人、4人に1人が高齢者です。そのうち、75歳以上いわゆる後期高齢者と呼ばれる方が2,628人、約10人に1人です。では、10年後どうなるのか。65歳以上の人口が7,447人、3人に1人が高齢者、ここが大事なのですが、うち、75歳以上の方の人口が4,372人、5人に1人が後期高齢者になります。今の1.66倍、約1,700人増えるということです。高齢者の方に健康で過ごしていただければ、それにこしたことはないのですが、残念ながらお年をとられるにしたがって、どうしても介護が必要となる方が増えてまいります。この現実には、決して避けて通るわけにはいきません。75歳

人口が今後10年間で1.66倍になるという状況を、是非ご認識いただきたいと思います。

後で申し上げますが、このまま何もしなかったらこうなるわけです。ですから、王寺町としては、少子化が進んでいるわけですから、より子育て施策をテコ入れしていく必要があります。しかし、一方で、高齢者、特に75歳以上の方が増えるわけですから、高齢者施策も必要であることは言うまでもありません。ただし、中身です。要介護度の高い方が増えれば、当然、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護度の高い方向への施設が、どうしても必要になってきます。ですから、施策をそちらの方にシフトして、他の施策を見直す。そういう全体の話になってくるのです。

5頁です。今言った続きで、介護保険の話になるのですが、ポイントと数字だけ言います。表の右端の2014年のところの太い数字を見てください。介護度3以上、ほぼ1人でなかなか生活できない状態の方だと言っていると思います。将来、国は、原則、要介護3以上の方しか、特別養護老人ホームに入れませんよという言い方をしています。そういう要介護3以上の方が、王寺町では、現在450人いらっしゃいます。先ほどの今後の高齢者の推移を当てはめますと、2025年、10年後ですが、今後、団塊の世代の方が75歳になります。世間ではそれを2025年問題と言っていますが、そこを乗り越えないといけない。その時は、要介護3以上の方が568人、現在の1.26倍に増加すると推計しています。王寺町が、これからもっと健康増進施策を実施して、みなさんが健康のままであれば、そこまで増えないかもしれません。本当にそうしたいのですが、今の状況が続けば、要介護3以上の方が、10年後には1.26倍になるということをお示しいたしました。

次に6頁ですが、これは、年度別に特別養護老人ホームの待機者数の状況を調べてみました。表の中の平成24年度のところを見てください。平成25年4月現在、待機者が計70人いらっしゃいました。近隣の各特別養護老人ホームに入所申込みされた方を整理して、実数に直しましたら、平成25年4月1日現在で70人ということです。で、頁の右端の上側の表ですが、4ヶ月後の平成25年8月現在の状況になります。4ヶ月経って、介護老人保健施設に入られた方が、70人のうち24人いらっしゃいます。要するに、介護老人保健施設で待機されているわけです。それから、頁の右端の下側の表を見てください。在宅の方、すなわち、家でショートステイ等を活用しながら待機されている方が、29人いらっしゃるという状況です。

7頁に移ります。特別養護老人ホームの待機状況ですが、頁の真ん中に平成26年2月現在の状況が書いてあります。特別養護老人ホームに入られた方は5人です。平成25年に待機されていた70人のうち、特別養護老人ホームに

入られた方が5人ということで、このような状況が続いているわけです。何故かと言うと、要因のひとつに、王寺町には特別養護老人ホームがありません。西和圏域の中で、介護3施設といわれるものが無いのは王寺町だけです。県では、特別養護老人ホームの必要性を、広域の充足率で見ているので、西和圏域に足りていると評価していますが、本当にこのままでいいのですか、ということを常々申し上げさせていただいております。特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設など核となる施設を誘致すべく、現在、検討しております。このような状況を数字により見ていただきたくて、ご説明させていただきました。